

種から育てる苗と花壇づくり

*** 日赤奉仕団太平百合が原分団の花壇づくり及び清掃活動について ***

札幌市日赤奉仕団太平百合が原分団分団長 まつ お 松尾 とし こ 敏子

日赤奉仕団は身近な 環境美化活動に参加する団体

札幌市赤十字奉仕団活動の目的は「明るい往みよい地域社会を築き上げていくために必要な実践的事業に奉仕する」という信条理念に基づいて、各分団員は環境美化奉仕活動を重点目標として奉仕活動を展開してきました。

昭和 59 年篠路出張所から分割し、太平連絡所（現まちづくりセンター）と太平児童会館及び太平地区会館が開設され、それに伴って、同じく日赤奉仕団太平分団も篠路分団から分離し、開設しました。

篠路分団から引き継いだ太平地区の分団員は、その当時 11 人でした。現在は名称を太平百合が原分団と改称して、分団員数も 76 人となり清掃奉仕活動に加え、社会の構造変化により、高齢者施設へのボランティア、子育て支援事業のボランティアが活動の主流に移り変わってきています。開設当時は、中島公園清掃・時計台周りの清掃・北区夏まつり後の清掃・篠路神社境内の草刈り清掃などのお手伝いがありました。現在も続いている北区北 27 条公園・麻生公園清掃は、北区 8 分団を 2 つに分けて春先に落葉、枯れ枝、空缶、ビニールなどごみ拾いの奉仕をさせて頂いています。

心を癒して、 気持のよい、憩いの場を

昨年度は、太平百合が原連合町内会創立 25 周年を迎えましたが、日赤奉仕団太平百合が原分団も同じく設立 25 年目を迎えました。設立当初を振り

返ってみますと、連絡所の建物の裏側の駐車場やその周りは草がぼうぼうと生い茂り、実に殺風景なものでした。

初代の連絡所長が連絡所前にレンガを仕切って苦勞しながら花壇を作っているのを見て「日赤奉仕団分団が花壇の管理運営と連絡所周りの草取り清掃」をさせて頂きたいと要望して始めたのが連絡所の「花壇づくりと草取り清掃」活動の始まりです。

太平児童会館に遊びに来る子どもたち、また連絡所に用事で訪れる人たちの目に、きれいな色とりどりの草花を眺め、心を癒して頂けたら、どんなにうれしいだろうと思い、毎月の清掃担当を班ごとに決め、毎回 10 人前後で花壇清掃活動を行っています。

種から花を育て、花壇をつくる

花の苗は、3 年前まで北区土木センターに花の種類と必要株数を申し込んで、まちづくりセンター



太平百合が原まちづくりセンターの花壇

の花壇、その周辺や裏側の駐車場植樹升へ植えていました。ところが、公共の施設の場所には配布が難しいと言われ、なるべく宿根草を植えることにしました。しかし、春から秋までの花壇に適した花がどうしても花壇づくりには必要です。

そんな時、北区では主体的なまちづくり活動支援として「スローライフ宣言4つの柱」のうち「花と環境」にちなんだ、花を通したまちづくり活動「種から育てる花づくり」を広報さっぽろで紹介されていたのを見て、早速分団役員会を開催し協議した結果、素人で手間のかかることだが、実施してみる事にしました。種、材料を区役所地域振興課から無料で提供してくれるのと、指導担当者も来て頂けるということでしたので、早速、苗づくりに挑戦してみることにしました。

プラグトレイで 育てる苗づくりに挑戦

一番初めに問題になるのが、プラグトレイを置く場所です。参加協力してくれる人たちの家に持ち帰っても、かなり広いスペースと暖かい温度調節ができる、環境条件が整っている場所がないからです。ちょうど私の家のベランダにプラグトレイを20個ぐらい置く場所があるので、1カ所で種植えと発芽管理をすることにしました。

花の種類は、サルビヤ（ブルーと赤色）とマリー



種から育てた花苗

ゴールド（黄色とオレンジ色）でプラグトレイにケシ粒のような小さい種をまきました。気を使った点は、発芽まで3～14日間毎日水やりを続け（花によって違う）、新聞紙に霧吹きで水をかけ



プラグトレイに種を蒔く



発芽したマリーゴールド

乾燥させないように覆をかけ、日光に当てないように注意をすることでした。

協力してくれる近所に住む人たち10人が毎日のように見に来ては、花の育て方の話が始まり、いつの間にか、別のおしゃべりの会に変わり、お茶会となってしまいます。さすがにマイガーデンづくりをしている人たちは、経験豊かで、成長するたびに、花芽摘み、肥料の与え方などを教えてくれます。

次に、プラグトレイから丈夫な苗にするために、ひと周り大きい「苗を大きく育てるポット」にピンセットで1本ずつ植え替える作業が大変でした。しかしほとんどの人たちは初めての経験なので、一生懸命やったことの満足感で、楽しく、喜んでいました。

サルビヤ150株、マリーゴールド200株を花壇

に植え、残った苗は、手伝ってくれた人たちが自分の家に持ち帰り、見事立派に育て上げ、雪の降る時期まで咲いて目を楽しませてくれたと、感謝とお礼の言葉を頂きました。

どの家の庭にも花の咲いているまちに -夏にはパンジーとハボタンを-

秋の花壇には欠かせない「ハボタン」を植えてみたいと思い、直接、大きめの苗づくりポットに種をまきました。時期からして少し遅かったのですが、発芽が良く5日目にはもう緑の芽が顔を出していました。白色と赤色の中心がピンクのちりめん系でした。草丈があまり伸びたら形が悪いの



花壇への苗植作業のようす

で、わい化剤を花に詳しい人に指導を受ながら使用しましたが、思っているようにはなりません。7月に入ったら、すぐ種をまいて育てるべきだったと思います。それから、青虫とかコナガ虫が付きやすく3~4日おきに殺虫剤を5回くら

い散布しても、なかなか退治することが難しく大きく形の良いのが作れませんでした。近所の人たちは、私の知らないうちに割箸で虫採りをしてくれていました。

花壇に植えて見ると、結構華やかに見えて、初めての「ハボタン」づくりにしては上出来だったと思います。児童会館に置いてあったプランタにも植えてみました。子どもたちに水やりを忘れないように、花をかわいがってあげて下さいと頼みました。昨年の冬は暖冬でしたので多少の雪をかぶっても枯れずに頑張っ咲いていました。

パンジーは春の訪れを 雪の下で待っています

8月の初めに種をまいたパンジーも、種まきの時期が少し遅かったと思います。発芽が遅く3~4週間かかりました。発芽するまで絶対日の光りを当てたら駄目です。1株でも芽を出したら、すぐ取り出し、風の当たらないところに半日陰において育てます。



近所のご夫婦が毎日朝早くからようすを見に来て世話をしてくれたお蔭で、約200株のパンジーの苗を育てることができました。

太平百合が原まちづくりセンターの花壇に暖かくなった5月上旬ころに植えるつもりですが、それまで、雪の重みと、子どもたちが上で遊ばれる心配があるので、私の畑の真ん中で冬眠をさせま

した。水やり、日光、霧吹きなど、花づくりは、子どもを育てるのと同じ愛情を注がなければ、素敵な花には成長しないことが分かりました。

地域の人たちは、どんな色のパンジーの花が咲くのかを楽しみに待っています。分団員やご近所の皆さまのお陰で、種から育てる花づくりは徐々に上手になり、自信につながりました。

この次は、もっと育てるのが難しい、たくさんの種類の種をまき、自分たちの庭を飾りたいと張り切っています。



太平駅の花飾り風景



太平南小学校でのペーパーフラワーづくり

以上のような花で飾るまちづくり活動が地域ごとに定着してきたら、小学校、中学校の生徒たちと共に、さらにPTAの家族と地域住民も参加協力し合って、学校の周りを「種から育てた花」で飾ってみたいものです。現在、太平南小学校の子どもたちと太平南福祉の会との共同で、太平駅に6年前からドライフラワーやペーパーフラワーで作っ

た花を飾っています。子どもたちに自ら育て咲かせた花の大切さと、思いやりの心が育つのではないかと思います。

地域住民参加で花のまちづくりを

それには、まず、地域のコミュニケーションづくりの体制ができ、学校と生徒たちが参加できる組織をつくり、リーダーとなる人たちを決めて企画、計画をして「花壇で飾るボランティア会」を設立し、実践に移すことができれば素晴らしいことだと思います。

自然と生物の営みについて学び、花を育てることによって命の大切さを知り、そして、思いやりの心が育つ、やさしいゆとりのある子どもたちと、地域住民が共通の喜びを楽しむきっかけづくりとなるよう願っています。



太平百合が原まちづくりセンターの花壇の前で